



好色女子成長期

香織

似非マリアの涙

安い笑顔をくれてやろう 誰もが知ってる僕の顔
癒されるって君は言うけど ぐちゃぐちゃな心は誰も知らない

ひとりでなんていたくない
飾るのなんて疲れたわ
赦されたいの 裸のまま
背くらべなんてしたくない

同じ星の仲間だなんて どこにもない幻想(ゆめ)信じてる
病んだ僕も 僕なのに 悟られないよう笑ってる

身を隠して 喪に服して
CLOSEのサイン掲げても
本当は空気になりたくなくて
構成要素でいたいのに

祈りのなかで泣きたいの
わんわん泣いたら赦されるかも
君と一緒に泣きたいよ
ドレスコードのない街で

なにも知らないくせに

なにも知らないくせに あら探しするんじゃないよ

なにも知らないくせに 文句ばっか言ってんじゃないよ

あたしが 毎日必死で生きてること

雨の日も 吹雪の日も 快晴すぎて眩しくて、それはそれでつらい日も

どんなコンディションの日でも せっせと生きていることを

あなたはなにも知らないくせに

そんなに威圧しないでよ

あいのうた

あなたが好き あなたが好き あなたが好き Oh

奪いたいわけじゃない でも触れてほしい
やさしく頭を撫でて ぎゅっとして 包まれたいの
それだけじゃ止まらなくなりそうさ
23歳好色女子よ

ああ あなたが好き あなたが好き これからもずっと

ビロードのように心地よいあなたが好きよ

F××kin' Thursday

この時間がキライ
木曜日のF××kin' Time
ミーティングなんて ミーティングなんて
なくなっちゃえばいいのにさ

聞こえているの それはノイズ
飛び交う言葉 すべてノイズ
延長 延長 また延長
I hate F××kin' Meeting!!!

マイクをよこせ

鬼気迫れ 少女よ ゆるふわな人生を送るな
書かせろ 馬鹿 書かせろつつってんだよ
お前なんか嫌いだ ああああああ書きたい。
あたしの世界 人に変だって思われるのが怖くて
恋バナも 共感覚のことも 好きな服のことも
ギターに憧れてたことも
本当にやりたいこと・好きなことは 誰にも言えなかった。
ギグバッグのジップを開けろ きっと何かが見える筈
観るだけじゃなくて 演りたいんだ
in-putが多過ぎてつらいよ
だから書かせろ あたしにも演らせろ
お前の話なんか聞きたくない
くだんね一御託ばっか言ってんじゃねえ
マイクをよこせ(こっちから奪ってやるわ)
マイクをよこせ マイクをよこせ
お前のマイクをこっちによこせ!!!

ミーティング

抜け出したい 飛び出したい
この空間から逃げ出したいな
何言ってんのかわかんない
温度差はいよいよ深まって 今日も独りでのっぺらぼう
大嫌い ミーティングは 大嫌い

誰も気づかないnoisy きっと私だけlonely
みんな心がバラバラだから
無意味な定期集会の中で一致したふりをするんだろ

またそうやって引き延ばす 薄めて 伸ばして
過ぎていく退屈な時間 この世で一番退屈な時間

いつの間にかできていた溝 そんなもんで埋めないで
他にやることあるでしょ 社会人どもめ

黒い春

くらくらする春の光 一寸先は闇な光
だって春はキライ 春なんて 春なんて 大嫌い
春は納豆の味 ごはんにかけてたべるとおいしい
始業式に向かうの あたらしい気持ちで
カバンは軽いのにいつもより重い気持ちで

春なんて 春のメロディーなんて
知ってる みんな不安なんだろう？
わざと陽気を装うの 桜はすぐに散ってゆくのに

ペンを滑らせろ 春の嵐だ
手帳に巻き起こせ 春一番を
書かなきゃ 書かなきゃ 追い立てられて
びっしり詰まった黒い文字
黒い春はもう目前

雨濡れ決死隊

傘なんてない 冷たい雨と視線が刺さる

それでも前に進まなきゃ 一人駆けてく雨濡れ決死隊

スロープに点字ブロック バリアフリーとか言っちゃって

良い人ぶるつもりなら 今すぐ入れてよあなたの傘に

持たざる者は不幸だって奴らの顔に書いてある

雨音が強くなるほど生きてる実感湧くじゃない

水溜まりにあえて飛び込んで Punk is attitude気取ってみる

独り

泣きたい日はいつも独りで立ち上がってきた
これからもそうやってつよくなってよわくなって
つがいになんかなれないよ独りで歩いてく

今日は人と関わっちゃいけない日
気づいてたけど仕事には行く
マスクの下は暗い顔
下手な愛想笑いから解放されて

布団かぶって
泣けもしなくて
消えちゃうよ ばいばい

暗い子だねって言ってたあなた
遠い空の下で笑っていて
同じ空の下で 生きていて

普通に生きていただけなのに

優しさに触れたつもりで
一つになんかなれやしないさ
心の中がぐちゃぐちゃなのに
ナチュラルとやらに染まらない！！

普通に生きていただけなのに
何かに抗ってしまう足が
拾いたくない音まで拾ってしまう耳が
書くことを止めてくれない右手が

普通に生きていただけなのに
普通に生きていただけなのに
普通に生きていただけなのに

追い詰めた先に見えるのは
平静を装い続けた先に見えるのは

ゆるさない

何をやっても 駄目なんだ って
一日を無駄にして 過ごしてる
増えていくんだキロカロリーー
午前2時の訪問に嫌気が差したの

ゆるさない

ゆるしてあげない

さびしい夜にはスナックを

キリキリキリキリキレちゃった
3弦のペグをまた間違えた
あたしとうとう魔が差したの

生きた心地がしないから
生きてる証が欲しいから
さびしい夜にはスナックを
さびしい夜にはスナックを

ゆるさない あたしにスナックを

ゆるさない 止められない 助けてbinge

くたばれbinge

The Clashを聴きながら

働きたい

仕事してないとあたしはクズだな

長い休みはキライ

持て余す憂鬱

あしたは出勤

あたしの出番

クラッシュが教えてくれた

真面目に生きなさいと

英語はよくわからない

でもそう言ってる気がした

転がり落ちるだけの人生は

そんなにカッコいいのか

ロックしてないあなたは

ロール ロール ただのロール

ロックンロールなんてどうでもいい

あたしは真面目に生きよう

クラッシュを聴きながら

そう決めた

貧血デストロイ

あー貧血ばかみたい

頭に酸素がまわらなーい

あー貧血うそみたい

酸素がなけりゃ燃えないわ

貧血デストロイ フェロミア

貧血デストロイ フェロミア

血清鉄(Fe)-てつ-を増やそう フェロミア

朝晩2回よ フェロミア

無気力はだれのせいなのー

前髪伸びすぎたせいなのー

その8割は貧血

貧血のせいなの デストロイ

わたしの血となれ フェロミア

愛され方も知らない 素直になれない
意地っぱりと敵対視 強がり友達に
無関心装いつつ 送る視線はいつも裏腹
気づきませんように/気づいてくれますように
どっちが正しいの
考える内は叶わない
これはあれですか
やっかいな…情には敵わない

激しく強く慕う心は
痴れものが発する熱に同じ
友にも親にも感じない色に
内なる欲が無きにしも非ず
この世でいちばん劣った人は
恋をしている?! 純な私か

冷静さ欠いてゆく 難儀な情がいつもめらめら

富士山情事

ナンバーガール解せる人に出会ったよ
あなたがトリップして2年経つのね
二の舞演じない Zには行かない
もう待つのはいやなんだ

ABCの味全部知ってる でも
いちばん大事なIはどこ？

愛すっ飛ばして富士山情事
歩き疲れて富士山情事
たまたまそこに 山があったの
ふたり温められる山

Aさえしてないのに
Zに行くの？
そんなIはもういらぬ

富士山情事よ永遠なれ
あなたいつまでもピロードのまま
25歳好色女子は
ナンバーガール解せる人に会いに行く

ハグをください

寒いからだ あたためるなら誰でもよかった
前から視線が痛くても
後ろ指さされてもかまわない
体温と引き換えに 心曇っていくのはなぜ
あなたから欲しかったものを求めて何がいけないの

ハグをください
ハグしてください
うなだれたわたしに
ハグをください

わざと哀しい歌うたって雨にあたって
不幸なんですと言いふらすよに
あなたのせいよ あなたが悪い
それで何かが変わるとでも

ハグをください
ハグしてください
うなだれたわたしに
ハグをあげよう

うなだれたわたしに
あなたのハグを

好色女子成長期

<http://p.booklog.jp/book/93383>

著者：香織

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/koshokujoshi/profile>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/93383>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパー（<http://p.booklog.jp/>）

運営会社：株式会社ブックログ